

和白干潟通信

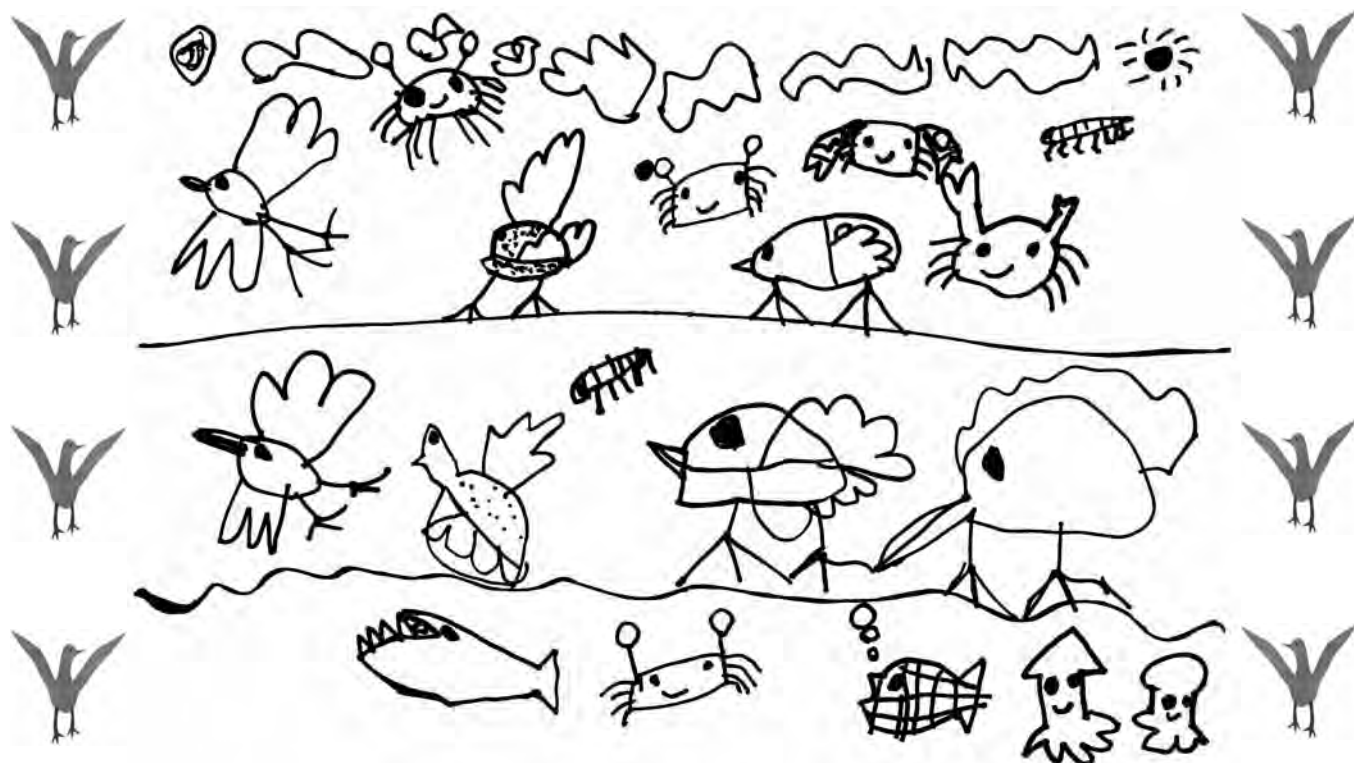
愛して、わじろ



No.114

2015年4月14日
発行: 和白干潟を守る会
〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37
Tel/Fax.092-606-0012
<http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

2011年3月11日に発生したマグニチュード9.0の東日本大震災、福島原子力発電所の事故から4年がたちましたが、思うように復興は進んでいません。被害を受けられたみなさまに、1日も早い復興とご健康をお祈り申し上げます。私たちは心から応援しています。



「ちどり保育園」くじら組の子どもたちの絵「わじろひがたのなかまたち」

新企画！ 春の和白干潟の自然さがし

和白干潟には全国の干潟では2か所だけといわれる貴重な自然海岸が残っています。砂浜、アシ原、クロマツ林や雑木林、淡水湿地など、干潟本来の自然の景観が残っています。この和白干潟の後背地や、干潟や岩場などの自然のすばらしさをさがして歩く、という企画を立てました。春の和白干潟や周辺にはどんなすばらしい自然があるのでしょうか？ 和白干潟を守る会会員といっしょに市民の皆さんも一緒に歩きませんか？ この企画は年4回、四季に1回ずついたします。私たちといっしょに和白干潟の宝物をさがしてみませんか？

- とき：4月28日（火）受付9:50 開始10:00～12:00 干潮12:22
- 集合：和白干潟海の広場（福岡市東区和白4丁目海岸）
- 参加費：無料 ●雨天中止、小雨決行
- 持ち物：ルーペ、筆記具、飲み物、あれば（双眼鏡）
- 服装：長そで、長ズボン、帽子、長靴
- 主催：和白干潟を守る会
- 問い合わせ：TEL/FAX：092-944-1543（山之内）



ツルナの花

2015年度 和白干潟を守る会 総会報告 (高田 将文)

主な役員と事務局組織

事務局組織と内容は下図の通りです

2月28日に、2015年度の総会が開催されました。参加者は18名。山本代表が「和白干潟を守る会は今年で27年目を迎えました。2014年度は3月から11月まで、ラムサール条約の街頭署名活動に取り組み、1月に福岡市長と環境大臣へ提出しました。

2014年度もすばらしい活動ができたと思います。今年度もラムサール条約登録地となるよう希望を持ってがんばりましょう。

みんなの努力で自然豊かな和白干潟を未来の人たちに渡したいと思います。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています。」と開会挨拶をおこないました。



会鳥 ミヤコドリ	観察会
代表 山本廣子	クリーン作戦
	干潟まつり
事務局	HP編集・通信
事務局長	調査、写真
今村恵美子	書記、会計
事務局員	名簿・通信配布管理
中島伸子	助成金、監査
山之内芳晴	保全のつどい
会計	山川海の流域と連携
田辺 スミ子	資料点検

2015年度活動方針 私たちは、この方針で1年間取り組みます！

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」「和白干潟まつり」「学習会」などの企画を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

・『春・夏・秋・冬の和白干潟の自然さがし』を始めます。会員の高齢化と経験の差異が課題となってきたため、互いの知識の向上と共有化を図り、一般にも参加を呼びかけ、自然観察ガイドの育成と確保に取り組みます。望遠鏡などガイド用品の更新も図ります。

2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

・新たな調査地点で、和白干潟へ流入する川の水についての水質検査を実施します。

3. 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

・ラムサール条約登録をめざし、議会、行政、市民に向けた活動に取り組みます。

・2018年で30周年を迎える和白干潟を守る会の記念事業に向け、検討を始めます。

2014年度決算と2015年度予算



(単位：万円)

● 2014年度決算

当期収入は224万円で、主な収入は会費40万円、寄付金142万円、助成金等24万円と事業収入が17万円です。当期は特に各企業や財団から多くの寄付金を頂きました。支出は197万円で、主な事業支出は通信・リーフレット発行、観察会、干潟まつりです。収支は27万円の黒字で、次年度への繰越は323万円となりました。

● 2015年度予算

当期収入は274万円を見込み、支出は254万円を計上しました。会費、寄付金など貴重な収入を大事に使っていきます。

	2014年度 決算	2015年度 予算
当期収入	224	274
当期支出	197	254
収支差額	27	20
前期繰越金	296	323
次期繰越金	323	343

和白干潟を守る会の活動を紹介します！（山之内 芳晴）

守る会では様々な活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしております。

●干潟で自然の大切さを伝える活動（観察会や干潟まつり）

学校や様々な団体の依頼を受けて、和白干潟自然観察会を実施しています。昨年は12回行いました。また、和白小学校では年間計画の中で継続して「和白干潟自然観察」を行い、2月にはまとめの発表会がありました。このほか、昨年11月には26回目の「和白干潟まつり」を開催し、約300人の参加がありました。



●和白干潟のクリーン作戦と自然観察

毎月第4土曜日の午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口までの範囲を主体に、企業や学生を含む一般の参加者と共に清掃し、同時に自然観察も実施します。昨年は定例のクリーン作戦のほかに臨時の清掃を加えると、年間21回行い、延べ1,470名が参加、2,139袋のゴミを回収しました。



●和白干潟周辺の自然の調査

環境省、バードリサーチ、クリーンアップ全国事務局などの依頼を受けて、年間を通してシギ・チドリ調査、水鳥調査、ゴミ内容調査に参加しました。（鳥9回、漂着ゴミ1回）



●和白干潟の水質調査と砂質調査の結果（毎月実施）

下の表は2014年10月から2015年3月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはほぼ例年どおりでした。砂質調査については、今年はアオサの発生が少なかったせいか、10メートル地点と沖合150メートル地点の表層酸化層の差が少なかったです。（表層酸化層が厚いほど砂質が良いことになります。）

水質調査結果（2014年10月～2015年3月）

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リン酸イオン (PO_4)	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	5	5	5	5	5	5
亜硝酸 (NO_2)	mg/l	0.005	0.02	0.02	0.01	0.01	0.005
透視度	cm	28	37	28	52	100	100

砂質調査結果（2014年10月～2015年3月）

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	3	8	22	32	18	19
還元層の黒色度	—	10	9	9	8	8	10
150㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	5	10	39	38	35	48
還元層の黒色度	—	9	10	9	9	8	8



●山・川・海の流域会議

立花山や三日月山を源流として和白干潟にそそぐ唐原川、この集水域全体を保全する目的で2012年7月に発足。立花山から和白干潟までの6団体で構成されています。2か月に1回定例会議を開き、2014年5月には唐原川お掃除し隊、11月に唐原川の植物と生きもの観察会、今年の1月には「立花山グリーンガイドの会」の福田会長と湖尻副会長を講師として「立花山の希少植物と流域保全・保護の重要性」についての学習会をしました。



助成金ありがとうございます！ 大切にに使わせていただきます！

- 1 / 25 「あいおいニッセイ同和損害保険（株）」 寄付金を頂きました。
- 2 / 25 「キャノンマーケティングジャパンKK」 寄付金を頂きました。
- 3 / 16 「スズキ自動車和白店」 寄付金を頂きました。
- 3 / 20 「（公財）イオン環境財団」 助成金を頂きました。
- 3 / 27 「2014年度レクサス特別賞」 助成金を頂きました。



アシの新芽

イネ科。2月下旬、早春の枯れたアシの根元から、アシの新芽ができました。「早春賦」の唱歌に「氷解け去り、アシは角ぐむ」とありますが、アシの新芽は地面から角が出て来たように見えます。この角がやがて1～2mにも成長して、穂を付けます。和白干潟は海辺で塩水の波がかかり、アシには過酷な環境なのでしょう。水際のアシはとても小さくしか育つことができないようです。陸の奥の方には2mのアシが群生しています。沿岸にはハママツナの小さな新芽もぎっしりと集まって出ています。



アシの新芽

カミクラゲ



カミクラゲ

花クラゲ目 キタカミクラゲ科。傘径4～6cm。日本特産種。2月～5月に出現。春の訪れを告げるクラゲとして知られているそうです。和白干潟でこのクラゲと初めて出会いました。3月8日のバードウォッチングで沿岸を歩いていて、この2～3cm位の小さなたくさんのクラゲを見つけました。すぐに専門家に写真を送りましたが、なかなかわかりませんでした。本物を捕獲して届けて、やっとわかりました。ビンに入れてみると、フカフカと泳ぎ、とても可愛いです。小さいのでまだ子どもようでした。髪の毛のように多くの触手をなびかせて泳ぐ姿が名前の由来だそうです。3月14日の観察会ではもう6cmの大きさのものを見ました。太平洋沿岸に多いそうですが、和白干潟にも来てくれました。

ツグミ

ツグミ科。全長24cm。和白干潟の後背地の樹林帯で越冬する冬鳥です。翼が赤茶色です。木の実を食べていますが、干潮時に和白干潟にも出てきます。干潟上を跳ね歩いては立ち止まり、胸を張って前を見るような動作を繰り返しています。干潟では水を飲んだり、ゴカイを食べたりしているようです。ツグミや他の小鳥たちが多い年と少ない年があるようで、今年は多い年のようです。アシ原の木の実のほとんどが食べつくされてしまいました。



ツグミ

春の和白干潟のしぜん

アシ原：花：ハマダイコン、ハマエンドウ、ハマウド、ハマヒルガオ。
穂：ハマニンニク。ウグイスのさえずり。
干 潟：潮干狩り。干潟の生き物：コメツキガニ、マメコブシガニ、オサガニ、ミズクラゲ、ウミニナ、ヤドカリ、アサリ、オキシジミ、マテガイ。アシ原付近：アシハラガニ、クロベンケイガニ。
沿岸の泥地：ヤマトオサガニ。
水 鳥：渡りのシギ・チドリ：オオソリハシシギ、ホウロクシギ、オバシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、メダイチドリ。夏鳥：コアジサシ、オオヨシキリ。
クロツラヘラサギ、ミヤコドリは4月中旬頃まで見られます。



ハママツナの新芽

和白干潟のラムサール条約登録を求める署名提出 ご協力に感謝します！



和白干潟のラムサール条約登録を求める署名を2012年秋から開始し、第1次集計6,728名分を2013年12月に提出しましたが、引き続き2014年度に取り組んだ第2次集計2,995名分を今年1月に福岡市長宛に提出しました。総計で9,723名分となりました。目標1万人をめざしていましたが、わずかながら達成できませんでした。全国の皆様からご協力いただいたことに感謝します。なお、環境大臣宛の署名は2,940名分、第1次集計と合わせ、総計9,558名分でした。今回は望月環境大臣宛に郵送しました。

福岡市長への要望書と署名提出には守る会10名が参加、要望書を山本代表が読み上げ、環境局環境調整課長が対応し、意見交換しました。市としては市民の理解がまだ得られていない、特別鳥獣保護区になっていないので条件が整わず申請はできない、とのことでした。1万人近くの署名をもってしても開発指向の議会の理解がないことが一番大きな障害となっています。(今村)

和白干潟のアシ原で火事

1月11日午後、和白干潟の海の広場のアシ原約500㎡で、火事があり、ヒトモトススキや保安林の一部が焼けました。風の強い日でしたが、幸い大きな被害はありませんでした。少年の火遊びの飛び火ではないかと思いますが、貴重な生態系を損なうようなことのないよう注意を促したいものです。(今村)



「バードウォッチングin和白干潟2014」開催



2014年12月7日11時半から13時まで、和白干潟保全のつどい主催で市民対象のバードウォッチングを実施しました。参加者は守る会スタッフ含め24名。海の広場に鳥の写真パネルを設営し、望遠鏡を準備。たくさんのカモ達に混じり、クロツラヘラサギやダイシャクシギもいました。鉄塔の上に日頃見ることの少ないハヤブサがいました。五丁川河口方面にはミサゴやカワウを発見、沖合にはスズガモやカンムリカイツブリなども見ることができました。この日は27種の鳥を観察し、可燃ゴミ4袋を回収しました。昨年と比べると参加者は少なかったのですが、穏やかな気候の中で観察でき、参加者も楽しく過ごされたようでした。(山之内)

「和白干潟の写真展」開催

2月2日より27日まで、福岡市東区香住丘の東市民センター1階ロビーギャラリーで、守る会メンバー山之内さんが和白干潟で撮影した鳥や植物、カニなどの写真30点を展示しました。東市民センターを利用する多くの市民の方たちに、和白干潟の自然のすばらしさをもっと知ってもらいたいと、初めての試みでした。たくさんの方に見ていただき、守る会のリーフレットや、資料、通信なども置きましたが、好評で品切れになっていました。(今村)



「日本自然保護大賞」入選



3月公益財団法人日本自然保護協会主催の平成26年度日本自然保護大賞に、和白干潟を守る会の「博多湾和白干潟の自然保護活動」が入選しました。日本自然保護大賞は2014年日本で自然保護憲章が制定されて40周年を記念して創設されています。自然保護と生物多様性保全に貢献した個人、団体、企業、自治体が対象です(今村)

●気が付いたらあなたも電話してください！

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時

092-282-7146 (港湾局維持課)

▼沖のアオサをとってほしい時

092-282-7153 (港湾局環境対策課)



●弱った野鳥を見つけた時 → 092-513-5611

092-643-3367

＊ ＊ お 願 い ＊ ＊

●干潟でのゴルフやラジコンの練習はやめましょう！
とても危険です。

●干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

●犬のフンの始末は飼い主がしましょう！



福岡県筑紫保健福祉環境事務所 (地域環境課)

福岡県環境部自然環境課野生生物係

活 動 日 誌

(山之内 芳晴)

●2014年12月

- 12/4 (木) 2014年冬期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
和白干潟通信113号編集会議
- 12/7 (日) 2014年冬期シギ・チドリ調査1回目(今津)
バードウォッチング in 和白干潟2014参加
- 12/9 (火) 第26回和白干潟まつり第3回実行委員会
- 12/11 (木) イオン黄色いレシートキャンペーン
「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 12/12 (金) あいおいニッセイ同和損保の寄付寄贈式
- 12/14 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 12/15 (月) 香椎東小学校5年生の和白干潟観察会
- 12/18 (木) ちどり保育園くじら組の和白干潟観察会
- 12/20 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 12/23 (火) 和白干潟通信113号編集会議



和白干潟、秋の響
(ハママツナの紅葉とクロツラヘラサギ)

●2015年1月

- 1/4 (日) 2014年冬 期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 1/8 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 1/11 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会) /
イオン黄色いレシートキャンペーン
- 1/12 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 1/13 (火) 干潟通信113号発送会
- 1/17 (土) 山・川・海の流域会議新春講演会
- 1/18 (日) 2014年冬期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)
和白海域水鳥調査
- 1/19 (月) 和白小学校4年生の和白干潟観察会
玄海風の子保育園かぼちゃ組の和白干潟観察会
- 1/24 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 1/29 (木) 「和白干潟のラムサール条約登録」を求める署名の提出
(福岡市)

ご案内

くすだひろこ きりえ 展

・ ° 和 白 干 潟 の 自 然 °

日時：5月1日(金)～5月30日(土)

11:30～15:00, 17:30～20:30

会場：レストラン「花もも」(日曜定休)

福岡市東区唐原3-7-6

TEL：092-673-0563

●2015年2月

- 2/1 (日) 2014年冬期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 2/3 (火) 2014年冬期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 2/8 (日) 和白海岸探鳥会(日本野鳥の会)
- 2/11 (水) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 2/12 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 2/26 (木) 和白小学校4年生の和白干潟観察会まとめ発表会
- 2/28 (土) 定例総会・臨時定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察



干潟のつぶやき「和白干潟の生物資源を大事にしよう」

秋になると越冬のために和白干潟にはたくさんのカモたちがやってきます。このカモたちは冬の間は和白干潟で過ごし、春になると北へ旅立って行きます。アオサがある間はヒドリガモ、オナガガモ、マガモなどたくさんのカモたちがいますが、アオサがなくなるとヒドリガモがいなくなります。干潟の波打ち際は、カモたちが盛んに水の中にくちばしを入れ餌を探しています。何を食べているのかと思っていましたが、干潟で貝殻の粉が混じったカモの糞を見て、アサリなどを食べていることが解りました。干潟にいるカモたちは、アオサがなくなると貝類なども食べるカモが残るのですね。近年、1月ごろになるとカモたちが少なくなるのは地球温暖化のせいで早くシベリアに行くのかなと思っていましたが、それだけではないようです。干潟にいる鳥たちには毎日が生きるための餌探しであり、餌がなくなればもっと餌が多い場所に行くようです。カモたちに和白干潟にいてもらうには、アサリなどの干潟の資源保護も大事ですね。(山之内)



和白干潟のカモたち

観察会報告(2014年12月~2015年2月) (今村 恵美子)

12月15日 香椎東小学校5年生154名と先生5名

好天に恵まれ、干潟のお話がスタートしました。みんな真剣に集中して聞いていました。次にバードウォッチング。ミヤコドリやハマシギ、ツクシガモやミサゴなど、時間を忘れて次々に望遠鏡を覗いていました。次はアシ原に向かい、ハマシギの綿毛を見ながら、センダンの葉痕を興味深げに眺めています。途中アオサが腐った臭いに驚いた様子でした。干潟のアサリやカニを探して沖に向かいました。子供たちは本当に楽しそうに干潟の生き物に触れていました。浄化実験の結果は、今日は寒くて時間が短かったことなどで、貝は海水の汚れをきれいにできていませんでした。きれいに浄化できているときの写真を見せて比べてもらいました。質問も次々手が挙がり、感想も生き物の多さに驚いたことや、干潟の大切さが解ったことなどを発表しました。何人もが授業以外でもまた来たいと口々に名残惜しく帰っていきました。(松田)



12月18日 ちどり保育園くじら組37名と先生3名



寒風が吹き、小さいからだには応えたようです。お話の時は良く聞いてくれましたが、鳥たちも風を避け和白川辺りにいて遠く、数も少なく、大好きだと言うダイシャクシギは、クチバシがよく見えず識別が難しかったようです。ツクシガモは良く見えたが、ミヤコドリも見当たりませんでした。アシ原の植物よりもカニの穴が気になります。ここは風が当たらず暖かでした。砂州に出ると風は容赦ありません。カニ掘りが目当てのスコップもほったらかしで両手はポケットの中、震えました。元気なお子さんは、フレリトゲアメフラシがいたと砂まみれのを捕まえました。先生もコメツキガニを探そうと掘って下さるが20センチぐらい掘ってやっと5匹。カニに触りたがり、私も私もと手が伸びます。干潟は寒く、アサリ掘りは止めて早めに引き上げて終わりました。(田中)

1月19日(午前) 和白小学校4年生116名と先生6名

6月の夏の干潟観察会を経験し、今回は真冬、日は射すものの強風の中での観察会でした。寒い中、環境教育に熱心な和白小の子どもたちは話もよく聞き、質問にもすらすら答えていました。あいにくの強風と満潮時が重なり、カモ類(マガモ、ツクシガモ、スズガモなど)しか見られませんでした。特に、カモたちが強風に向かって泳ぐ姿がいにしらしく、子どもたちの歓声も大きくなっていました。アシ原観察ではセンダンの葉痕観察、アシの繁みのぬくもりを感じ、干潟に入ってからカモの足跡や波の紋など観察しました。みんなで拾ったゴミは18袋もありました。(松田)



1月19日(午後) 玄海風の子保育園かぼちゃ組26名と先生4名



和白の浜では、珍しく白波が立って、望遠鏡の中の鳥は遠くて動きも少なく、識別が難しかったようです。アシ原ではカニの穴が気になり、指を突っ込みます。ぐっと水が引いた干潟では、貝やカニを探し、動かぬコメツキガニを小さな手のひらに包みこみ暖めてやる優しさがあります。お別れの挨拶の後、カモ笛を吹かせてもらって満足顔で帰っていきました。ゴミも一緒に4袋拾いました。(田中)

2月26日 和白小学校4年生の1年間の観察会まとめの発表会

和白干潟を守る会7名が参加しました。春夏秋冬を通して和白干潟を見て下さるのは、地元の学校でもあり頼もしいことです。4年生全員を前半と後半に分け、前半をまた11の小さな班に分け、発表する子と後半の子どもたちは聞き役に回り、私たちも各班の話と説明を受けました。広い紙に鳥の絵あり、人形劇あり、色々の手段で自分が見たこと・感じたこと・しなければならぬこと・した方がよいことなど、それぞれに発表がありました。プロジェクターを使いこなし、現代っ子の先端をも見せてくれた班もありました。一番多かった事柄は干潟を綺麗にしたいとの思いだったようです。これだけ地元の事に関心を持ち考えてくれる子ども達がいることは、とても嬉しいことです。この気持ちを大きく育てて欲しいと思いました。

子どもたちの発表が終わった後は、和白干潟を守る会の観察会まとめの授業をしました。守る会ガイド一人ひとりが感想を述べ、山本代表がパワーポイントを使って和白干潟の学習をしました。最後にガイド皆でミヤコドリの歌を合唱しました。(田中)

守る会問い合わせ窓口

ホームページ: <http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

入会/観察会(申込等)

山之内芳晴

Tel/Fax.092-944-1543

クリーン作戦

田辺スミ子

Tel 090-1346-0460

会費

田中貞子

Tel/Fax.092-606-5588

干潟まつり

今村恵美子

Tel/Fax.092-942-5282

広報/調査/定例会議

山本廣子

Tel/Fax.092-606-0012



ハマダイコン

お知らせコーナー

和白干潟のクリーン作戦と自然観察のおさそい

- 集合：和白干潟 海の広場（東区和白4丁目海岸）
- 4月25日（土）15時～17時 小雨決行「干潟・湿地を守る日2015」参加企画
「全国春のビーチクリーンアップ2015」参加企画
- 6月7日（日）9時半～11時半「ラブアースクリーンアップ」参加企画
問合せ：Tel 090-1346-0460（田辺）

キャノン「未来につなぐふるさとプロジェクト」
クリック募金 実施中！（2/2～12/11）
「福岡県」の「和白干潟を守る会」に毎日1クリックを
お願いいたします！ 1円が守る会に寄付されます。
守る会のHPか、キャノンのHPから
<http://cweb.canon.jp/csr/donation/index.html>



定例スケジュール

- **定例会議（4/25, 5/23, 6/27）**
毎月第4土曜日10時半～13時 守る会事務所にて開催。
以下は参加自由です！仲間が待ってます！
- **クリーン作戦と自然観察（4/25, 5/23, 6/27）**
毎月第4土曜日15時～17時 和白干潟・海の広場集合
長靴があると便利。駐車場なし。
- **和白海岸探鳥会（5/10, 6/14, 7/12）**
主催：日本野鳥の会 福岡支部
毎月第2日曜日9時～12時 JR和白駅前公園集合
参加費：一般300円 野鳥の会会員100円



会員募集中！
年会費 個人 2,000円
団体 5,000円
カンパの協力お願い
郵便振替
01720-4-2386
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟を守る会のボランティア活動に参加して、新たな自分を見つけませんか？あなたの経験や知識や技術が、きっと活かされますよ！

和白干潟の鳥たち（その70）大杓鷗 ダイシャクシギ（チドリ目 シギ科/Curlew）[全長58cm]



（写真撮影：三宅 僚）

ダイシャクシギは旅鳥、又は冬鳥として和白干潟に訪れています。1990年代の和白干潟には、冬に12～13羽がミヤコドリと一緒に行動していました。1994年の和白干潟沖の人工島工事着工以来、飛来数が減少してきて、近年は2～3羽が訪れています。今年は秋の渡りでは4羽が見られましたが、1羽のみの越冬数でした。英名のようにカーリューと鳴き、ホーイ、ホーイとも鳴きます。コメツキガニをよくとり、嘴で巣穴から上手に引っ張り出して足を振り落とし、体を丸呑みにします。長い嘴をひしゃくの柄に見立てた名前で、体が大きいので「ダイシャクシギ」。私が和白干潟で一番初めに好きになった鳥です。
（山本 廣子）

【編集】 山之内芳晴・田辺スミ子・今村恵美子・高田 将文・山本廣子

《カット》「ちどり保育園」の子どもたち・くすだひろこ

次号は2015年7月に発行予定

【編集後記】今冬は寒かったですね。少し前までは暖冬だと言われていましたが、ここ2～3年は夏は猛暑、冬は極寒が続いています。温暖化の影響でしょうか？12月には冬鳥が多く訪れますが、1月にはもう減少。特にシギ・チドリ類の減少が顕著です。冬鳥の多い和白干潟を願っています！（山本 廣子）